

2018年2月28日
慶應義塾大学 SFC 研究所

データ活用型農業を実現する『農業データ連携基盤』の プロトタイプ稼働を開始 —3/12に慶應義塾大学三田キャンパスでフォーラムを開催—

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス SFC 研究所は、内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)「次世代農林水産業創造技術」の支援を受け、環境情報学部 准教授 神成淳司を研究分担者として、SIP 研究コンソーシアム参画機関とともに、データ活用型農業を実現する『農業データ連携基盤』の構築に取り組んでおります。

昨年12月に『農業データ連携基盤』のプロトタイプ稼働を開始したことから、3月12日(月)に慶應義塾大学三田キャンパスで「農業データ連携基盤フォーラム」を開催し、これまでの研究成果を発表いたします。ぜひご取材ください。

我が国の農業の競争力強化や農業者の所得向上を実現するためには、データ活用型の農業を展開していくことが不可欠であることから、産学官で連携して、ベンダーやメーカーの垣根を越えて異なるサービス・システム間の連携を実現する「農業データ連携基盤」(データプラットフォーム)の構築を進めてまいりました。

これまでに

- (1) データの連携・共有・提供を可能にする農業データ連携基盤の基本機能の構築、
- (2) 農業データ連携基盤と、農業者等に ICT サービスを提供する農業機械メーカーや ICT ベンダーのシステム・サービスとの接続、
- (3) 農業データ連携基盤と、地図・気象・土壌・生育予測に関する民間サービスや国等のデータとの接続、

を完了するとともに、2019年4月からの本格稼働に向けたプロトタイプ稼働として、農業機械メーカーや ICT ベンダーが、農業データ連携基盤を介して自社のシステムに気象等のデータを取り込み、今までは実現が困難だった、様々な分野のサービス・データと連携して新たな ICT サービスを農業者に提供できる取組を試験的に開始しております。

加えて現在、農業データ連携基盤が有するデータ連携・共有・提供機能をフルに活用し、データ活用型農業の新たな可能性を探るため、

- (1) メーカーの壁を越えてトラクター作業データの共有を可能にし、生産者同士で相互に参照可能にするプロジェクト、
- (2) 水稻の生育予測システムを活用し、農業データ連携基盤上に生成したビッグデータによって、効率的にシステムの予測精度を改善するプロジェクト、
- (3) 農業データ連携基盤を通じて提供される気象、土壌、生育予測等に関するサービスやデータを取り込み、機能向上した ICT サービスを農業者に提供するプロジェクト、
などに取り組んでおります。

こうした取組の成果につきましては、3月12日（月）に慶應義塾大学三田キャンパスで開催する「農業データ連携基盤フォーラム」において、ご紹介させていただきます。

農業データ連携基盤の取組に対して様々な分野の方々に参画いただくため、昨年8月に農業データ連携基盤協議会（通称：WAGRI）を立ち上げ、これまでに農業分野やICT関連分野のみならず、金融機関、商社、学校法人、国等の研究機関、地方公共団体等、幅広い分野から120以上の企業、団体、機関等に参画いただいております。農業データ連携基盤の取組を新たな農業サービスの創造等につなげていけるよう、今後とも積極的な情報発信に努めてまいります。

※本プレスリリースは、SIP研究コンソーシアム参画機関が共同で発表しています。

※本研究は、内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「次世代農林水産業創造技術」（管理法人：生研支援センター）によって実施されます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾大学環境情報学部 神成淳司研究室

kaminari-core@sfc.keio.ac.jp

【配信元】

慶應義塾大学湘南藤沢事務室学術研究支援担当

kri-pr@sfc.keio.ac.jp

TEL:0466-49-3436

FAX:0466-49-3594

「農業データ連携基盤フォーラム」 開催案内

我が国の農業の競争力強化や農業者の所得向上を実現するためには、データ活用型の農業を展開していくことが不可欠です。本フォーラムは、これまでに構築を進めてきた「農業データ連携基盤」により、我が国の農業をどのように変えることができるのか、実際の活用事例などをご紹介しますながら、関係者の方々とともに理解を深めることを目的に開催します。

1. 日時：2018年3月12日（月）13：00－15：30
（受付開始および開場時間 12:30 より）

2. 場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 南校舎5階 南校舎ホール
（東京都港区三田2-15-45）

3. プログラム（案）：

- 1) 開会挨拶
- 2) 祝辞
- 3) 農業データ連携基盤の紹介
- 4) 農業データ連携基盤の活用事例の紹介
 - メーカーの壁を越えたトラクター作業データの共有について
 - ビッグデータ活用による水稻生育予測システムの効率的な精度改善について
 - 機能向上した ICT サービスの生産現場での活用について
 - 農業データ連携基盤を通じて提供予定のサービスについて
 - 生産現場における農業データ連携基盤の活用可能性について
- 5) 閉会挨拶

※本フォーラム終了後、ご参加いただいた皆様から、発表内容などに関する質問を受け付ける Q&A 対応セッションを設ける予定です。

※プログラムは、現時点の案であり、今後変更になる可能性がございます。

4. 定員：600名程度（先着順）

5. 参加申込要領：

(1) 申込方法

農業データ連携基盤 協議会HP（下記ご参照）よりお申込み下さい。
<https://wagri.net/>

(2) 申込期限

2018年3月8日（木）18時まで

【農業データ連携基盤（データプラットフォーム）の基本的な機能】

(1) データ連携機能

農業 ICT ベンダーや農機メーカー等の壁を越えて、様々な農業 ICT、農業機械やセンサー等の間のデータ連携を可能にします。

(2) データ共有機能

一定のルールの下でのデータの共有が可能になり、データの比較や生産性の向上に繋がるサービスの提供を可能にします。

(3) データ提供機能

土壌、気象、市況など、様々な公的データ等のオープンデータ、民間企業による有償データ等の蓄積を図り、無償・有償での農家に役立つ情報の提供を可能にします。

(4) サービス連携機能

1kmメッシュ気象予報、地図等、既に提供されている民間の有償サービスとの連携を図り、プラットフォームを介し、個々の農業者が目的や時期に合わせてこれらサービスの利活用によりエビデンスベース農業の実現を図ります。

【SIP 研究コンソーシアム参画機関】

※順不同、2018年2月1日現在

井関農機（株）、NEC（日本電気（株））、NECソリューションイノベータ（株）、NTT（日本電信電話（株））、（株）NTTドコモ、NTT空間情報（株）、（株）ハレックス、（株）クボタ、慶應義塾大学 SFC 研究所、全国農業協同組合連合会、ソフトバンク・テクノロジー（株）、（株）日本総合研究所、（公社）日本農業法人協会、日本マイクロソフト（株）、（株）ネクストスケープ、（国研）農研機構、農匠ナビ（株）、パナソニック（株）、（株）日立ソリューションズ、（株）ビジョンテック、富士通（株）、ヤンマー（株）、（株）ライフビジネスウェザー

【関係省庁】

内閣府、農林水産省、内閣官房、総務省、経済産業省、気象庁

【予算等】

本研究は、内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「次世代農林水産業創造技術」（管理法人：生研支援センター）によって実施されています。